岐阜健康友の会3ヵ年計画に取り組もう

岐阜健康友の会　会長　大塚　研二

今年の定期総会では2023年度の活動方針とともに、2025年度までの3ヵ年計画を立て、2024年5月に開院を迎える新病院の完成のための取り組みとその後の友の会の発展をめざす活動方針を提示しました。

計画は、次の4つの項目に分けました。

①新病院建設を成功させ、友の会会員、「いつでも元気」購読者を広げる
②より多くの人が参加する支部の活動を
③安心して住み続けられる街づくりと憲法・平和を守る活動
④全国各地の共同組織と交流し、その活動を学ぶ

新病院建設の成功が第一義的課題ですが、その後の活動をより充実させるために取り組む課題をあげています。友の会会員、勤医協基金の協力者、「いつでも元気」購読者を一層広げること、より多くの人が参加する、楽しく元気な地域に見える支部の活動の継続が、そのために欠かせないことです。来年岡山で開催予定の全国共同組織活動交流集会は、職員の皆さんと一緒に参加し、色々な活動に学びながら私たちの活動を報告する機会です。

安心して住み続けられ街づくりと憲法・平和を守る活動は、私たちが粘り強く取り組む課題です。地域の実態と要求を受け止め、諸団体との共同をはかり、職員の皆さんとの共同の力で、あたらしい居場所づくりに挑戦しましょう。

「人類の生命と健康を破壊する一切の戦争政策に反対し、核兵器をなくし、平和と環境を守る」これが民医連運動の目標です。国際ジャーナリストの伊藤千尋さんは「民医連の事業所で憲法九条の碑を建てよう」と呼びかけています。（2022年1月の京都民医連新春の集いの記念講演）京都・まいづる協立診療所は、この呼びかけに応え、2022年11月、開設30周年の記念事業として「九条の碑」を敷地内に建立しました。3ヵ年計画に取り入れた、郡上市白鳥町正法寺境内の碑に続く県内2番目の「九条の碑」の建立を多くの団体や個人の共同の力で実現させましょう。

支部の集まり、他団体との共同の場などで、この3ヵ年計画について色々な意見、要望、疑問などを出し合い、できることから取り組みを始めましょう。

災害に備えて

岐阜健康友の会　副会長　山田　和也

4月26日、全体支部運営会議として各務原市川島にある岐阜県広域防災センターへ研修に18名で行ってきました。

初めに夜中の火事を想定した煙（水蒸気）の暗い迷路を体験しました。前が見えなくて壁にぶつかることも・・・。本当の火事だとのどが焼けたり目が痛んだりするそうです。

次に防災備蓄館を見学しました。毛布や発電機などが管理されていました。

本館での地震体験は、震度4から震度7、130年前に起きたM8.0濃尾地震と今後想定されている東南海地震を体験しました。「大きな地震を感じたら様子を見るのではなく、すぐに行動しないと間に合わないと思いました。」壁には「百年に1度は明日かもしれません。」と掲示されていました。

最後に消火器体験を行いました。これまでに訓練で扱ったことのある方も全員で体験しました。火事を発見したら、一番最初にすることは大声で「火事だ」と叫び知らせること。消火は自分の安全を確保しながら行うことが必要。

各班や個人でも体験を計画されてはいかがでしょうか。煙体験は10名以上で事前予約が必要ですが、他は一人からでも体験できるそうです。10名以上の時は事前に予約してください。（開館日は毎週火～金と毎月第3日曜日の9：00～16：30。来館前にご確認ください）

二度と戦争を繰り返さないで！　～78年前の7月9日、岐阜空襲がありました～

9条を守ろう

今回の9条守ろう！は、岐阜空襲を体験された4名の方の体験談をお伝えします。

当時13歳だった私は、空襲で焼夷弾の火の粉があちこちに飛び火している火を踏み消しながら、木之本から本荘の方へ逃げました。

翌日、焼死体の整理にかり出され、壕の中で硬直している死体にかぶせる物がなかったので、焼けたトタンを被せていきました。そこへ農家の人が三輪トラックで救護のおにぎりを届けてくれ、それを焼死体を触った手で、硬直した焼死体を見ながら平気で美味しく食べました。今ならとてもできることではありません。

叔母（母の姉）の足下へ焼夷弾が落ち、手の骨が見えるくらいの大火傷を負い避難をしました。薬は無く、腐った胡瓜の汁を火傷につけるだけでした。包帯を変えるときには、所々蛆がわいていて、包帯が皮膚と一緒に剥がれるため、その痛さで叫ぶ声が今でも忘れられません。

障がいがある息子を連れて逃げることができず、「お母ちゃん」と叫ぶ息子の声を聞きながら逃げてきました。その後、息子を幾日も探しました。

母の友人は、爆撃でご主人を亡くされたが、火葬場まで運ぶことができず、自分の家の燃え残りで火葬したそうです。

岐阜空襲では、多くの方が戦争の被害を受け悲惨な体験をされました。岐阜県下での空襲は岐阜市だけではなく、各務原、大垣、多治見など多くの地域で何度も空襲攻撃され、多くの方が亡くなられ、多くの方が被害を受けました。こんな悲惨な体験は二度と繰り返されてはいけません。そのためにも9条を守りましょう！

北山・東山支部　3年ぶりの支部総会

2023年5月9日（火）参加者21名で、3年ぶりの総会を開催しました。

久しぶりの顔に出会えて、型通りの総会であっても「集い」は良いものだなと感じたひと時でした。新支部長は、工藤仁さんが選ばれました。

第2部の「薬Q&A　～何でも相談～」では、会場からの質問に、浅野洋子さん（しいのみセンター副薬局長）が丁寧に答えてくださいました。

「かかりつけ薬局、かかりつけ薬剤師」の制度と現状についてのやり取りが中心でした。

こんな中、「コロナ5類に移行。今後どうしたらよいか」との質問がありました。この時、私たちは新しい体験をしました。会場正面の大型テレビ画面の中に今西正人さん（みどり病院薬剤部部長。神戸出張中）が登場され、説明を頂いたのです。いわゆるオンライン。「5類になっても、コロナウイルスがいなくなったわけではない。怖いのは『コロナ後遺症』に未知の部分が多すぎること。甘く考えていると後悔する事態にもなりかねない。」とのこと。今は、パンデミックの通過点に過ぎないと知りました。

最後にリニューアル進捗状況の説明があり、「病院リニューアル工事の進行状況の説明が大変良かった。建物の中のことがよく分かった。」との参加者の感想でした。

（市川）

三輪支部　会員へ班会案内チラシを配布

5月10日、「骨密度測定」の健康班会を北部コミュニティーセンターにて開催しました。

いつも健康班会は、決まったメンバー8～10名の参加で開催しますが、今回は三輪地域の友の会会員130名ほどに、案内チラシを配布しての「健康班会」計画をしました。

当日の参加は、いつものメンバーの8名のみでした。

はじめに、みどり病院リニューアルの説明をしてもらい、次にみどり病院の市原放射線技師を講師に「骨密度測定」を行い、測定結果の見方の説明もしてもらいました。

班会が終了し、部屋を片付けてから帰りの際に、2名のご夫婦が来られました。講師の方も帰るところでしたが、せっかく来ていただき本人の希望もあるため、ロビーにて骨密度測定をしていただきました。このお二人は案内チラシを見て来たということでしたので、今後も根気よく会員に案内を続けること、会員同士が声がけすることが大切だと感じました。

（須田）

碧山歩会にはいりませんか？

あなたに「健康登山のお勧め」です。中高年になると筋力の低下を防ぐためにも老化現象を遅らせるためにも運動の必要性が増してきます。そこで、日常的にウォーキング、非日常的に健康登山は誰にでもできるすぐれた運動です。健康友の会所属の「碧山歩会」に入会して、是非ご一緒に歩きましょう！年会費はこの二十三年間変わらず三千円です。現会員の年齢層は六十歳から八十五歳までの二十四名となり、殆どが七十歳代です。登山している山は殆ど岐阜県内の山です。是非、あなたの入会をお待ちしております。

入会希望やご質問等は
下記まで連絡して下さい

連絡先は
河村彰英（090-6615-2999）
宮田町子（090-3968-1508）

今年1月8日:芥見権現山登頂写真